

【第5学年】児童の課題及び授業改善策

〈令和2年度〉

	児童の実態	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃から読書をする児童が多いが、ジャンルが偏っている。また読書量に差がある。 ◆文章を要約することはできるが、それについて自分の考えや思いを文章で表現することが苦手な児童が多い。 ◆文や文章を読み、情報を正確に取り出す力は身に付いてきている。しかし、比較したり解釈したりする力を更に高める必要がある。 ◆熟語や慣用句などの言語活用が弱い児童が多い。漢字の習得に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃から様々な本を積極的に紹介し、教室内に掲示したり、発表したりする機会を増やす。 ○日頃から、「自分だったら」ということを考えられるような発問をし、自分の考えや思いを表現できるように練習する。 ○文章の大事なところをまとめて書く指導を積み重ね、要約する力を高める。また、読み比べる学習活動や解釈するための学習課題の意図的な設定をしていく。 ○思考に関わる語句の量を掲示し、話や文章の中で使わせる。毎日の宿題に、ただ漢字を書くのではなく漢字や文章に出てきた言葉を使う問題を積極的に出す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の生活や社会のことについて、興味関心の高い児童とそうでない児童の差が大きい。 ◆基本的なグラフや表など資料の読み取りはできるが、そこから想像して表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの生活と社会科の学習の関係性がわかるような具体的な資料を用意したり、また新聞記事の紹介など積極的に行う。 ○グラフや表などの資料から、どんなことが今後予想されるのかをまとめる練習を具体的に行う。また何度か練習する機会を積極的にとる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ◆四則計算の習熟における個人差が大きい。基礎となる知識や技能を確実に身に付けさせる必要がある。 ◆算数に対する意欲にも差が見られる。すすんでさらなる課題に取り組み、様々な考え方ができる児童が多い。 ◆場面をイメージして問題に取り組み力が課題である。身近な生活場面を想定したり、最適な単位を用いたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別のグループで学習し、個に合った指導を行う。単元によっては、既習事項の復習を行いながら、基礎・基本の定着を図っていく。 ○スモールステップを大切にし、どこに課題があるのかを明確にして習熟を図っていく。算数に対する自信をもてるような声かけをしていく。 ○場面を把握するために、図や表を活用させるとともに、生活場面に照らし合わせることを意識して指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ◆予想を立てる時に、根拠を同時に考えさせるが、既習事項や日常での体験と結びつけて説明する力が身に付いていない児童が多い。 ◆実物を見たり、実験を行う単元に対しては意欲をもって取り組めるが、そうでない単元では意欲の低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験を行う際には、既習の内容を振り返ったり、日常での現象を想起させる導入を行う。 ○ICT教材を活用し、動画やデジタル教材を効果的に使い、児童の意欲や理解を高めるよう工夫する。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童主体の個別の課題を設定することで、一人一人が非常に意欲的に探究的な学習をすることができている。他教科との関連を意識することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通した課題を用意し、他教科の学習に関連のある内容を学習する際には内容を意識できるよう声かけを行って行く。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題に対して真面目に取り組む意欲もある。主体的に課題を見付ける力を更に高めたい。 ◆技能面において個人差があり、苦手な児童への個別指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現力、鑑賞力向上の為、一人一人「考え工夫する」具体的なめあてをもたせると共に、学習の中で互いの表現の工夫や良いところを発表し合い、学びあい高め合う学習をさらに取り入れるような指導の工夫を行う。 ○個に応じた指導を継続して行う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ◆意欲的に学習活動に取り組む児童が多い。 ◆構想を立て、見通しをもつ力を身に付けるための指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを工夫してめあてを明確にし、計画を立てたり活動の振り返りを習慣化する。 ○参考作品や資料を提示し、発想を広げる工夫をする。 ○友達の活動を見合う時間をとり、お互いのよい点を見付け、話し合う活動を積み重ねる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ◆調理や裁縫の実習に興味をもって取り組んでいる。裁縫技術は個人差があるが、意欲的に作品作りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別支援を充実させ、丁寧に分かりやすく指導していく。繰り返し練習し、経験を積ませるために、技術習得のための活動時間を意図的、計画的に設定する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ◆運動能力が高い児童が多い。また日頃から身体を動かすことが好きな児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことの楽しさ、またその良さをたくさん味わわせ、運動が苦手な児童も参加しやすい場を準備する。 ○タブレットを使用し学習の具体的なイメージを持たせやすくする。動画を撮影し自分の技能の向上に役立出せる。 ○運動の特性に応じた動きを指導したり、友達同士で教え合う活動を取り入れたりする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆外国語に興味をもち活動に楽しく参加する児童が多いが、学んだことを使って自信をもって表現する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいをはっきりさせ、一人一人に意識させ、振り返りをさせる。 ○外国語を話すことの楽しさや良さを感じさせる活動を取り入れる。